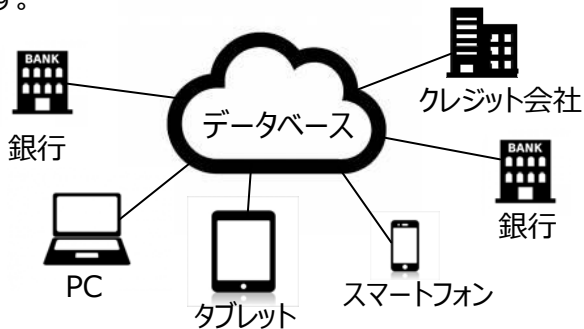


これから普及が進む、 「クラウド会計」とは!?

2. クラウド会計の現状

銀行取引やクレジットカード決済など便利なイメージのクラウド会計ですが、実際のところ、どこまでできるのでしょうか。

銀行取引やクレジットカード決済については、金融機関との連携ができていくクラウド会計ソフトだと、9割以上の金融機関と自動で連携することが可能です。

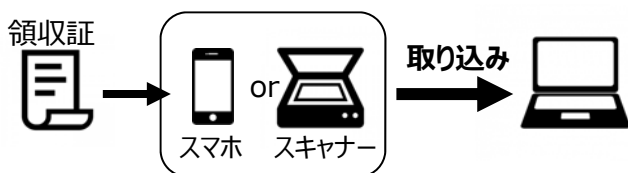


自動連携とは、通帳やカード利用明細に書いてあるそのままの文言と金額の情報を取り込むことができるということです。



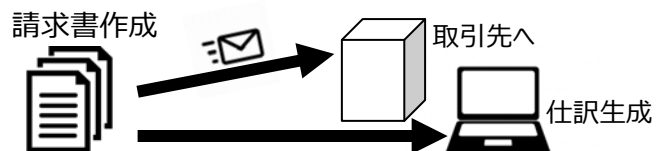
これを1つずつ仕訳登録していくことでソフトが入力規則を覚えていき、最終的には自動化できる、というしくみになっています。また、AIにより、自動仕訳も徐々に行われ始めています。

領収証の入力も、少しずつ自動化されています。



画像データとして取り込み、OCRで日付や金額を読み込んで、そこから仕訳を起こせます。そうすると、仕訳と領収証の画像データが紐づき、後から確認する際にとても楽になります。

更なるサービスを行ってくれるところもあります。クラウド会計ソフト「Free」の場合は、電話番号もOCRで読み取り、登録した取引先を呼び出して仕訳の提案をしてくれます。また、「MFクラウド」の場合は、有料ですが、オペレーターによる仕訳の入力を行ってくれます。一部のソフトでは、請求書の発行もでき、そのまま仕訳を自動生成することもできます。更に、その請求書を取引先へ、メールや郵送(有料)を行ってくれたりもします。



クラウド会計への期待

- 自動化の範囲が広がり、楽になる。
- 仕訳の提案がAIの進歩と共に良くなる。
- 付帯サービスが発展し、より事務が軽減される。

クラウド会計の不安

- サービスの広がり急で、使いこなせるか。
- サービスが途中で打ち切られないか。
- サービスがまだまだ発展途上。

<詳細やご不明点等、お気軽にご連絡ください。(担当：鉄本) ☎084-931-1428>